

令和4年度

川崎市立中学校  
学習状況調査  
報告書

川崎市教育委員会・川崎市立中学校長会

はじめに

川崎市教育委員会  
教育長 小田嶋 満

学習指導要領全面実施2年目を迎え、“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、教育活動の質の向上のために全職員でカリキュラム・マネジメントの充実に向けた取組を推進していただいていることと存じます。

本市では、平成27年度に策定した第2次川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」の基本理念及び基本目標の実現に向けて、これまでの第1期から第2期実施計画期間の取組及び国の動向や社会環境の変化を踏まえ、新たな教育課程に対応できるよう今年度からの4年間の取組内容を体系的に整理した「第3期実施計画」を策定しました。ここでは、新型コロナウイルス感染症や社会のデジタル化、SDGs、Society5.0といった社会環境の変化に対応できるよう「8つの基本政策」に基づいた取組を掲げています。特に基本政策Ⅱでは、学ぶ意欲を高め、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな心身」をバランスよく育み、将来の予測が難しい社会を生き抜くために必要な「生きる力」を確実に身に付けることをめざしています。

川崎市学習状況調査は、各学校が学校教育目標等で示した資質・能力の育成に向け、生徒が自身の課題を把握して自らの学習改善を図るとともに、教員が生徒の状況を適切に把握し、授業改善や教育課程編成等に生かすために行っています。また、令和4年1月にデジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省によって「教育データ活用ロードマップ」が取りまとめられ、誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも自分らしく学べ、個に応じた支援を受けられるようになることへの方向性が示されました。学習状況の把握については、ICTの活用により、スタディログと言われる学習履歴を活用し個に応じた指導を一層重視していく必要があります。

各学校におかれましては、本調査の結果を活用して、実態を的確に把握した上で、生徒たちに「どのような力が必要なのか」、「どのように指導の改善・充実を図っていくのか」を学校全体で考え、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、そのために1人1台端末を最大限活用することをより一層意識し、教育課程全体の改善に取り組んでいただきますようお願いいたします。

結びに、川崎市学習状況調査の運営・実施に当たって御尽力いただき、「中学校現職教育委員会」をはじめとする川崎市立中学校長会の皆様にも、厚くお礼申し上げます。

## 令和4年度「川崎市立中学校学習状況調査」のまとめにあたって

川崎市立中学校長会  
会長 大津 裕一

昨年度から新しい学習指導要領の全面実施となりました。各学校においては、社会に開かれた教育課程の理念のもと、これまでの実践とICTの活用を適切に組み合わせながら、全ての生徒の可能性を引き出す個別最適な学び、協働的な学びである「令和の日本型学校教育」の実現に向け、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの確立等にご尽力いただいているところと存じます。

この川崎市立中学校学習診断テストは、昭和43年度から市内の全中学生を対象に始まり、今年度は55回目の実施となりました。平成17年度からは、「かわさき教育プラン」に則り「川崎市立中学校学習状況調査」として実施され、2年生については「生活や学習についてのアンケート」も併せて実施しております。新型コロナウイルス感染症拡大に対応して様々な制限がある中、本調査を継続して実施いただきましたことに感謝申し上げます。

各教科（国語・社会・数学・理科・英語）の調査につきましては、学習指導要領に示されている目標及び内容の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」についての学習がいかに関心を持って定着しているかについて、各学年同一問題によって実施しています。そして、その結果を診断し、今後の学習指導の改善に役立たせるとともに、生徒自らが学習状況や学習課題の把握ができるようにすることを目的としています。このような趣旨に基づき、本報告書では各教科について分析・考察し、今後の授業改善の手立て等についてまとめております。また、各教科統一した形式の「経年観察およびその考察」のページを設けて、同類の出題に対する正答率の経年変化を分析し、資質・能力の育成のための課題等を明確にしています。

各学校におかれましては、生徒一人一人の学習についての意識等を的確に把握し、教育課程の改善や学習の質を一層高める授業改善に向けた基礎資料として本報告書を役立てていただけたらと存じます。

最後になりますが、学習状況調査の実施に際しまして、ご尽力いただきました、川崎市教育委員会、校長会現職教育委員会及び教育研究会の各教科部会、教頭会の皆様にご心より感謝申し上げます。

## 目次

### I 調査の概要

1. 調査の目的	5
2. 調査の内容	5
3. 調査の対象	5
4. 調査実施日及び調査対象人数	5
(1) 調査実施日	5
(2) 調査対象人数	5

### II 調査結果の概要

1. 国語	9
誤答分析及学習指導上の考察	12
2. 社会	31
誤答分析及学習指導上の考察	34
3. 数学	51
誤答分析及学習指導上の考察	54
4. 理科	67
誤答分析及学習指導上の考察	70
5. 英語	87
誤答分析及学習指導上の考察	90

### III 生活や学習についてのアンケート

調査の概要	107
調査結果と分析	109
単純集計	109
クロス集計	130
各教科の正答率との相関	139
資料 調査結果集計表	143

### IV 問題用紙・解答用紙・アンケート質問紙

国語	156
社会	184
数学	233
理科	253
英語	300
生活や学習についてのアンケート	332

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

学習指導要領に示されている各教科（国語・社会・数学・理科・英語）の目標および内容の基礎的・基本的な「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」について学習したものが、いかに生徒に定着しているかを全市一斉に学年ごとの同一の問題によって調査する。そして、その結果を診断し、今後の学習指導の改善に役立たせる。また、生徒自らが学習状況や学習課題の把握ができるようにする。

## 2. 調査の内容

### ○ 国語・社会・数学・理科・英語

調査の目的に基づき、学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容の基礎的・基本的な事項について、各教科の出題範囲に基づいて、全学年を対象とする調査を実施した。

### ○ 学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

生徒の生活や学習に対する意識等について明らかにするために、第2学年の生徒を対象とする調査を実施した。

## 3. 調査の対象

市内全市立中学校の全学年の生徒

## 4. 調査実施日及び調査対象人数

(1) 調査実施日 令和4年11月8日(火)

(2) 調査対象人数

中学校 第1学年	9,911人
中学校 第2学年	9,862人
中学校 第3学年	10,183人